

ずいそう

## 神社巡りの楽しみ方 心に残る神社紹介



中村 恵美

「あっ！神社が見えた！寄って」ドライブ中声を掛ける。「お祭りしているの？私たち厄年だっけ？」神社はお祭りや節目に行く方が多い。行事がない時は中々行かないものである。「厄年でもないし祭りもない。神社が好きで御朱印集めているから」「そっか、わかった」私は御朱印を集める楽しみもあるが、神社そのものが好きなのである。

私の育った場所は山があり、川があり、海があり、高いビルなんて一つもないような田舎。遊ぶ場所は神社やお寺、ゲームなど普及しておらずいつも外で遊んでいた。学校区が同じ2つの地区を結ぶ峠には「権現様」と呼ぶ神社があった。そこにはいつも誰かがいた。ゴム跳びや鬼ごっこ、縄跳びなどをしていると17時「夕焼け小焼け」が流れ慌てて家に帰った。近所のお寺は絶好のかくれんぼスポット。裏の丘には小さい洞窟があり、奥には石の仏像が数体あった。怖いと思いつながりながら強がって隠れていたのを覚えている。お盆しか開いてない納骨堂では肝試し、走り回って何度か注意された記憶がある。お正月は除夜の鐘を突きに人が集まりワクワクした。神社やお寺にはそんな楽しい思い出がたくさん詰まっている。だから今でも神社やお寺が好きなのだろうと思う。

前置きが長くなったが、18県・100社ほど訪れている神社の中から私が感じた魅力と自己流の神社巡りの楽しみ方をお伝えしたい。

神社は全国に約8万社、小さい神社も入れると10万社以上になると言われている。神社には種類があり、天皇の祖先神を祀る神社を「神宮」、天皇や皇族にまつわる人物を祀る神社を「宮」、伊勢神宮の出張機関を「大神宮」、地域信仰の中核をなす神社を「大社」、最も一般的な神社を「神社」、比較的小さな神社を「社」という。祀られている神様も自然物を神聖化した神様、古事記・日本書紀に記された神様、歴史に名を残した偉人など様々である。

神社巡りをする際は、まず事前にネットで下調べをして、歴史や特徴に思いを巡らせる。私の神社巡りは行く前から始まっているのである。

神社に到着するとまず鳥居が目に入る。鳥居といえどどこまでも続く千本鳥居の伏見稲荷大社（京都府）

(写真-1)、海に浮かんだように見える（実際は置いている）巖島神社（広島県）、火山灰に埋め尽くされ笠木部分となり上から眺める腹五社神社（鹿児島県桜島）が印象に残っている。

狛犬も魅力の一つである。阿形・吽形が一般的。珍しいのは遠吠えしている姿の日枝神社日本橋撰社（東京都）(写真-2)、狛猿を置いている日枝神社（東京



写真-1 伏見鳥居



写真-2 日枝神社日本橋撰社

都)などがある。京都を旅行した時に加茂別雷神社(上賀茂神社)に行った。本殿特別公開が実施されており普段は入れない場所で参拝が出来た。左に銀色の狛犬(伝説上の獣)、右に金色の獅子が置かれ、壁には絵画(影狛)が描かれており、銀の狛犬が月(陰)、金の獅子は太陽(陽)を表し絵画は江戸時代のものとの説明があった。加茂御祖神社(下賀茂神社)も同様の狛犬、狛獅子があった。洋風に感じる姿、鮮やかな色使いは江戸時代のものとは感じられなかった。歴史を身近で感じる良い経験となった。特別拝観に出会った際はぜひ体験してほしい。

神社の入り口には立て看板があり神社の歴史、祀られている神様や由来などが書かれてある。立て看板を見た後、鳥居で一礼し参道を歩く。参道に一步入れば静寂な空間が広がる。清々しい空気(時には重い空気の時もある)を感じながら玉石の上を歩くザッザッという音を楽しみ、手水舎の装飾を眺め手と口を清め本殿に向かう。

色鮮やかな本殿は稲荷社、特に祐徳稲荷神社(佐賀県)は朱色が印象的でカラフルである。まるで別世界に入ったような錯覚を覚えた。稲荷社でも比較的大きな神社は鮮やかだ。同じ朱色でも宇佐神宮(大分県)は厳かな空気に包まれたように感じる。色は同じでも神社により雰囲気はかなり変わる。鮮やかな神社も魅力的だが、伊勢神宮(三重県)に代表される建物(神明造り)は神社建築様式で最も古いと言われ直線的でシンプルな造りが魅力的である。阿佐ヶ谷神明宮(東京都)、熱田神社(愛知県)など数も少ないため特別感も否めない。また本殿の屋根部分にある千木と鯉木(写真-3)にも注目したい。千木の形で祭神の男女の区別が出来ると言われている。鯉木に関しては奇数なら男神、偶数なら女神と諸説があるが豆知識として覚えておくと面白いかもしれない。

本殿、末社、奥宮に参拝、ご縁を感謝する。参拝が終わると御朱印受付を行う。御朱印とは参拝や奉納の証明であり、神仏とご縁を結んだ証として発行されるものである。デザインは様々な種類があり、切り絵風(写真-4)、有名漫画家とのコラボによるアニメ風の絵が入ったもの、刺繍が入ったもの、季節の花の絵(写真-5)など限定御朱印も人気である。私は必ず一般的な御朱印を買うようにしている。右に参拝又は奉拝の文字、中央には神社名と神社印、左に日付が入っているシンプルなものである。大体の神社は半紙も用意しており、受付と同時に受取出来るのも選ぶ理由である。連れを待たせなくていい。とはいえやはり限定ものには弱く、つつい1社で数枚の御朱印を買ってし



写真-3 千木と鯉木



写真-4 東京都小綱神社 限定御朱印



写真-5 佐賀県武雄神社 限定御朱印

まう。書く人により力強さ、繊細さなどイメージが変わることも魅力だ。御朱印を眺め自己満足に浸りながら参道を戻る。立て看板、鳥居、狛犬、建物、御朱印、隅々まで楽しむこれが私の自己流神社巡りである。

最後に、お賽銭のキャッシュレス化について。最近はお賽銭箱の横に「こちらでもご利用できます」と書かれたQRコードがある。お賽銭がキャッシュレス?衝撃を受けたのと同時に違和感があり未だ利用していない。お賽銭は神社が金融機関に預ける際、手数料がか

かり1円が多いと赤字になることもあると聞く。預かる金融機関はごみを省き判別のつかない小銭を洗浄する必要があると聞いた。大変な手間が掛かることがわかる。そういう話を聞くと双方にキャッシュレス化のメリットがあると思う。日常生活のキャッシュレス化と同様にすぐに浸透するだろう。そうなれば手軽さからお賽銭の金額も増えるかもしれない。少子高齢化の影響で人手不足、働き手不足と言われる中、効率化にはDXが推進されている。歴史のある神社やお寺もDX化が必要な時代になったと改めて思う。

日常には常識やルールがあふれており、時には窮屈を感じる。神社は静寂とともにゆっくりとした時間が流れ、落ち着きと解放感に包まれる。「変わってゆくものもあれば、変わらないものもある。」これからも自己流神社巡りを続けていきたいと思う。

みなさんも散歩がてら神社へ出向いてはいかがでしょうか。

—なかむら えみ  
コマツカスタマーサポート(株) 直轄事業部 直轄営業部 担当課長—

